



■ 監査法人 BDO Japan

次世代が活躍する プラットフォームを、ともに創る

合併はゴールではなく、新たなスタートです。
日本の監査業界をリードする中核的なプラットフォームを、
次世代とともに創っていきます。

**あなたの成長が
監査業界の未来につながる**

■ ■ なぜ今、私たちは一つになるのか

監査を取り巻く環境は、急速かつ構造的に変化しています。

二つの強みを掛け合わせ、次世代のための新しい監査法人を『**対等の精神**』で共に創ります。

01



環境の変化

監査品質への社会的要請の高度化、AI・ICTの進展、人材確保競争の激化、被監査会社の国際化。求められる役割と責任は年々重くなっています。

02



強みの掛け合わせ

両法人の人材・専門性・AI開発力・国際ネットワークは相互補完の関係。
掛け合わせることで、品質・育成・投資をより高い水準で実現できます。

03



共創

対等の立場で、次世代のための新しい監査法人 BDO Japan を共に創る。
合併はゴールではなく、新たなスタートです。

■ なぜ『仰星と三優で』なのか

規模も、構成員の雰囲気も、大切にしている価値観も似ている。だからこそ、大きな相乗効果が生まれます。

■ 合併の基本思想

**対等な立場で、
新しい監査法人をともに創る**

過去の延長線上ではなく、
合併後の新しい法人を起点として
未来を次世代のために設計する
—— その意識を両法人で共有しています。

■ 本質的に共通する、5つの理念

- ✓ 高い監査品質を持続的に追求する価値観
- ✓ 監査品質を最優先とする姿勢
- ✓ 人材・個性を最大の資産と捉える価値観
- ✓ 個性を尊重する、顔の見える組織
- ✓ 中長期の視点で、成長を続ける志向

■ 次世代が活躍できるプラットフォームへ

合併によってできることが増え、活躍の舞台が広がります。より新しいステージで、より多くのチャンス。

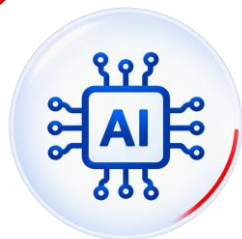
01



グローバル対応

世界5位・BDO International
のネットワーク。国際案件や
海外拠点との連携が広がる。

02



AI・ICT投資

大手水準のAI投資で、
不正検知など先進的な監査を
実践できる体制へ。

03



非監査業務の広がり

サステナ保証、財務アドバイザリー
、IT系コンサル（ISMAP含む）へ
サービスを拡大。

04



成長とチャンス

できることが増え、成長する
機会が増える。次世代が活躍
できる舞台がここに。

■ ■ 監査法人 BDO Japan が大切にすること

規模を追うためではなく、次世代が活躍できるプラットフォームを創るための合併です。



監査品質を最優先

高い監査品質を、安定的・持続的に。
私たちの価値観の中心にある姿勢です。



人材＝最大の資産

人材・個性を最大の資産と捉える。規模が倍
になっても、決して手放さない価値観です。



人を大切にする文化

一人ひとりが働きやすく、満足して働けるこ
と。それが監査品質の源泉。支え合い、成長
を後押しします。



現場が主役

本部ではなく現場を重視。一人ひとりが能動
的に動く、顔の見える面白い監査法人へ。

■ 合併後の規模 — 監査法人 BDO Japan のスケール

二つの準大手監査法人が一つに。人員・売上ともに大きく広がります。



三優監査法人

国際ネットワークに強み



総人員

410人



売上高

約51億円



上場監査先

80社



仰星監査法人

監査へのAI活用に注力



総人員

412人



売上高

約52億円



上場監査先

110社



合併後 | 監査法人 BDO Japan



822 人

総人員
(常勤+非常勤)



110 億円

業務収入・合併後見込
(2026年6月期)



190 社

上場監査先

上場監査先 190社は、四大監査法人の一角に並ぶ規模。

※総人員は2026年7月時点、上場監査先数は2026年6月期末時点、売上高は2025年6月期決算の数値。

■ 更なる成長へ

6位・7位の両法人が一つに。

順位	監査法人	売上高（億円）	上場監査（社）
1	有限責任あずさ監査法人	1,314	542
2	有限責任監査法人トーマツ	1,297	697
3	EY新日本有限責任監査法人	1,228	731
4	PwC Japan有限責任監査法人	841	189
5	太陽有限責任監査法人	181	358
—	監査法人 BDO Japan 合併後	約110	190
6	仰星監査法人	52	110
7	三優監査法人	51	80
8	東陽監査法人	46	80

※ 売上高は、有限責任監査法人トーマツは2025年5月期、他は2025年6月期。
上場監査数は、有限責任監査法人トーマツは2026年2月末、東陽監査法人は2026年3月末、他は2026年6月末の数値。





次世代が活躍する プラットフォームを、ともに創る

合併はゴールではなく、新たなスタートです。
日本の監査業界をリードする中核的なプラットフォームを、
次世代とともに創っていきます。

**あなたの成長が
監査業界の未来につながる。**